

## 放射性セシウムの追加的放出量 (Bq/h)

平成 31 年 3 月 26 日  
福島県原子力安全対策課

東京電力では、1～4号機原子炉建屋からの現時点の放出量（セシウム）を、原子炉建屋上部等の空气中放射性物質濃度（ダスト濃度）を基に評価しています。

1月に実施された評価は下表のとおり、1～4号機の放出量の合計で、 $1.3 \times 10^5$  Bq/h 未満であり、前月と同様に放出管理の目標値（ $1.0 \times 10^7$  Bq/h）を下回っていることを確認しています。なお、これによる敷地境界における被ばく線量は年間 0.00047mSv 未満と評価しています。

### 平成 31 年 1 月の状況

原子炉建屋	ダスト採取場所	セシウム 134 (Bq/cm <sup>3</sup> )	セシウム 137 (Bq/cm <sup>3</sup> )	追加的放出量の 評価値 (Bq/h)	備考
1号機	原子炉直上部北西側	ND (検出限界 $9.4 \times 10^{-8}$ )	ND (検出限界 $9.8 \times 10^{-8}$ )	$3.5 \times 10^2$ 未満	前月は $5.4 \times 10^2$ Bq/h 未満
	格納容器ガス 管理システム出口	ND (検出限界 $1.0 \times 10^{-6}$ )	ND (検出限界 $1.2 \times 10^{-6}$ )		
2号機 作業期間外	ブローアウトパネル 排気設備入口	$2.0 \times 10^{-7}$	$1.8 \times 10^{-6}$	$3.9 \times 10^3$ 未満	前月は $8.3 \times 10^3$ Bq/h 未満
	格納容器ガス 管理システム出口	ND (検出限界 $1.6 \times 10^{-6}$ )	ND (検出限界 $1.4 \times 10^{-6}$ )		
2号機 オベフロ調査 期間中	ブローアウトパネル 排気設備入口	ND (検出限界 $2.1 \times 10^{-7}$ )	$2.1 \times 10^{-7}$	$1.2 \times 10^3$ 未満	前月は $1.2 \times 10^4$ Bq/h 未満
	格納容器ガス 管理システム出口	ND (検出限界 $1.6 \times 10^{-6}$ )	ND (検出限界 $1.4 \times 10^{-6}$ )		

3号機	原子炉直上部南西	$1.5 \times 10^{-6}$	$1.7 \times 10^{-5}$	$1.2 \times 10^5$ 未満	前月は $7.2 \times 10^3$ Bq/h 未満
	格納容器ガス 管理システム出口	ND (検出限界 $1.0 \times 10^{-6}$ )	$8.8 \times 10^{-7}$		
	燃料取出し用 カバー隙間 排気設備入口	ND (検出限界 $9.5 \times 10^{-8}$ )	$4.3 \times 10^{-7}$		
	燃料取出し用 カバー隙間 排気設備出口	ND (検出限界 $9.6 \times 10^{-8}$ )	ND (検出限界 $8.2 \times 10^{-8}$ )		
4号機	燃料取出し用 カバー隙間上部	ND (検出限界 $8.7 \times 10^{-8}$ )	ND (検出限界 $9.6 \times 10^{-8}$ )	$2.9 \times 10^3$ 未満	前月は $1.4 \times 10^3$ Bq/h 未満
計				$1.3 \times 10^5$ 未満	前月は $1.8 \times 10^4$ Bq/h 未満

(問い合わせ先 024-521-7255)